



乳がん検診について



【この説明書をよくお読みのうえ、検診をお受けください】

乳がんは、乳房の中にある乳腺（母乳をつくる場所）にできる悪性腫瘍で、乳がんの発生や増殖には「エストロゲン」と呼ばれる女性ホルモンが深くかかわっています。乳がんは、女性にできるがんのなかで一番多く、年間約97,000人が、乳がんになり、約15,000人が乳がんのため亡くなっています。しかし、早期発見・早期治療を行えば、より高い確率で治すことができます。

乳がん検診について

越谷市では、市内在住の35歳以上の女性の方に、2年に1回乳がん検診を受診していただけるよう実施しています。

検診内容は、「視触診検査」と「マンモグラフィ（X線）検査」です。

必ず両方の検査をお受けください。どちらか一方のみの受診はできません。

検診を受ける際の注意事項

□ 検診を受ける際に介助が必要な方（自分の力で10分程度立位を保持できない等）は、検診受診前にご相談ください。

□ 以下の方は越谷市が実施する乳がん検診を受けることができません。

該当される方は、乳腺外科や乳腺外来のある専門の医療機関を受診し、相談してください。

◆ 妊娠中の方、妊娠の可能性のある方

マンモグラフィ検査がレントゲン検査のため、放射線が胎児に影響を及ぼす可能性があります。

◆ 産後6か月未満の方

◆ 授乳中の方、断乳（卒乳）後6か月未満の方

乳房内の乳汁・乳腺の発達の影響により、正確な診断ができない場合があります。

◆ 豊胸術を受けた方（抜去術後を含む）

◆ 心臓ペースメーカーを使用している方

◆ 前胸部にCVポートを留置している方

◆ 髄液シャント術（V-Pシャント術など）を受けた方

◆ 心臓、肺等の上半身の手術創や骨折が完治していない方で、医師からマンモグラフィ検査の許可がない方

検査時の乳房圧迫により、影響を及ぼす可能性があります。

◆ 乳房の病気があり医療機関で経過観察をしている方（乳がん術後や良性腫瘍など）

新型コロナウイルスワクチン接種に伴う注意事項について（日本乳癌検診学会より）

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応として、接種した側のわきの下や頸部のリンパ節が腫れることがあります。

乳がん検診のスケジュール調整が可能であればワクチン接種前に施行することをお勧めします。

ワクチン接種後に施行する場合は4～6週間の間隔をあけてもよいですが、ワクチン接種の時期に関わらず、検診期間中に乳がん検診を受けていただくようお願いいたします。

乳がん施設検診の流れ



- ①説明書（この用紙）を読み、乳がん検診記録票を記入します。
- ②「視触診検査」を受けます。
※視触診検査を受けた医療機関で、マンモグラフィ検査の予約をとります。
※マンモグラフィ検査の予約数が定員に満たない場合、予約日を変更していただく場合があります。
- ③後日、「マンモグラフィ検査」を受けます。
- ④マンモグラフィ検査日から1～2ヶ月後にご自宅に結果が届きますので、結果を確認してください。
※検診の結果、要精密検査と判定された場合は、必ず専門の医療機関を受診しましょう。
該当する方へは、結果通知とともに精密検査の受診方法をご案内します。

視触診検査とは？

医師が、左右の乳房に差がないか、胸のしこりやひきつれがないかなどをチェックします。左右の胸だけでなく、わきの下も触ってリンパ腺の腫れなどを調べます。

マンモグラフィ検査とは？

乳房専用のX線撮影のことであり、乳がんの死亡率を減少させる科学的根拠のある検査として認められています。視触診では診断できない小さなしこりや、しこりになる前の石灰化した微細な乳がんの発見に威力を発揮する検査方法で、乳がんの早期発見に欠かすことのできないものです。ただし、乳腺が密な若い人の場合は、しこりを見つけることが難しいことがあります。

検査は、乳房を片方ずつ、プラスチックの板ではさんで圧迫し、乳房を平らにして撮影するため、痛みを伴う場合があります。圧迫は、乳房を薄くすることで内部の様子を鮮明に写すためと、放射線の被ばく量を少なくするために必要です。我慢しきれないほどの痛みの場合は、レントゲン技師にご相談ください。閉経前の方は、月経開始1週間後くらいが適していると言われています。

X線検査のため、妊娠中の方はマンモグラフィ検査を受けることができません。妊娠の可能性が高い場合は医師にご相談ください。

精密検査について

☆検診の結果、詳しい検査が必要な場合は、必ず精密検査を受けましょう☆
乳がんの専門は乳腺外科や乳腺外来などです。

- ◆精密検査は専門の医療機関であれば他市町村、他都道府県の医療機関も受診していただけます。
- ◆精密検査に関する費用は保険診療となります。
- ◆精密検査の方法は、「疑わしい病変の部位」や「悪性の可能性があるかどうか」により、医師によって選択されます。
《精密検査内容の例》
 - ・マンモグラフィの追加撮影
 - ・超音波検査(エコー検査)
 - ・穿刺吸引細胞診や針生検（病変が疑われた部位に針を刺し、細胞や組織の一部を取り出してがんがないかを調べる検査）など
- ◆精密検査結果は、精密検査実施医療機関より、越谷市健康づくり推進課及び検診実施医療機関へ報告されます。

◆すべての検診にはデメリットがあり、検査では見つけにくい「がん」もありますので、すべての「がん」ががん検診で見つかるわけではありません。また、「がん」でなくても「要精検」と判定される場合もあります。

◆ブレスト・アウェアネスを習慣づけ、乳がんの早期発見に努めましょう。しこりや乳頭分泌物などの異常に気づいたら、すぐに乳腺外科や乳腺外来のある専門の医療機関を受診しましょう。

※ブレスト・アウェアネス…自分の乳房の状態に日頃から関心を持ち、乳房を意識して生活することです。

【お問合せ】越谷市保健医療部健康づくり推進課（越谷市保健センター）

☎048-960-1100

【K2023】